

平成29年度地域学校協働活動研修会①（学校支援）

平成29年6月20日 13:30~16:00
津山市中央公民館

研究主題

「連携・協働をすすめる『組織作り』とは」

地域コーディネーター、学校支援ボランティア、
地域連携担当職員、行政関係者等 29名参加

講話

「地域学校協働活動に向けた次へのステップ」

岡山大学 大学院教育学研究科 教授 熊谷 慎之輔 氏

○連携・協働を進める組織づくり

- ・学校・地域・家庭を「チーム学校」として組織することが必要。
- ・「チーム学校」に属する大人が活動を通して学び合い、それぞれの活動に対する視点が変容していくことが重要。
- ・活動の目標やビジョンを共有するための学びの場を設定することがポイント。

○中学校区への着目

- ・中学校区の地域コーディネーター同士、地域連携担当職員同士が情報共有の場等を通して、中学校区全体で活動の充実を図ることが大切。
- ・中学校区ごとに地域の課題を共有し、小学校、中学校の9年間を見通した目標・ビジョンを共有することが重要。
- ・小・中学生の子どもたちが異年齢同士で関わる活動を設定することが、子どもの活躍の場をつくる上でのポイント。



講話の様子

実践発表

「地域で育ち、地域を育てる新庄っ子」

新庄村地域コーディネーター 平中 理恵 氏

○地域と学校の「協働」の姿

- （地域から学校へ）学校支援ボランティアが「傘踊り」の指導
- （学校から地域へ）村の祭りで、「傘踊り」の披露
- ※村の伝統文化（傘踊り）を通じた双方向の活動が実現

○地域と学校をつなぐための取組

- ・教職員の理解を深めるため、校内研修で活動の目的や依頼、打ち合わせの仕方等のポイントを共有
- ・パートナーとしての関係づくりのため、校内にボランティアルームを設置

○継続的な活動に向けた取組

- ・活動の質を保ち、継続するための「打ち合わせ用紙」の工夫と保存



実践発表の様子

情報交換

テーマ「私が活動のやりがいを感じた場面」

- ・活動を通して、児童・生徒や学校支援ボランティアの喜ぶ姿が見られた。
- ・学校支援の活動は、児童・生徒への教育的効果があり、大人同士の学びの場としても有意義である。等



情報交換の様子

アンケートより

- ・中学校区でめざす子ども像を共有するなど、学校・地域・家庭がビジョンを共有することの必要性を感じた。
- ・活動を通して、大人同士が学び合い、変容することが重要と感じた。
- ・（実践発表の）学校から地域への活動依頼書の記載内容の工夫が参考になった。
- ・依頼書を保存することで、人材が交代しても、活動の内容や質が引き継がれるようにするという配慮が素晴らしい。